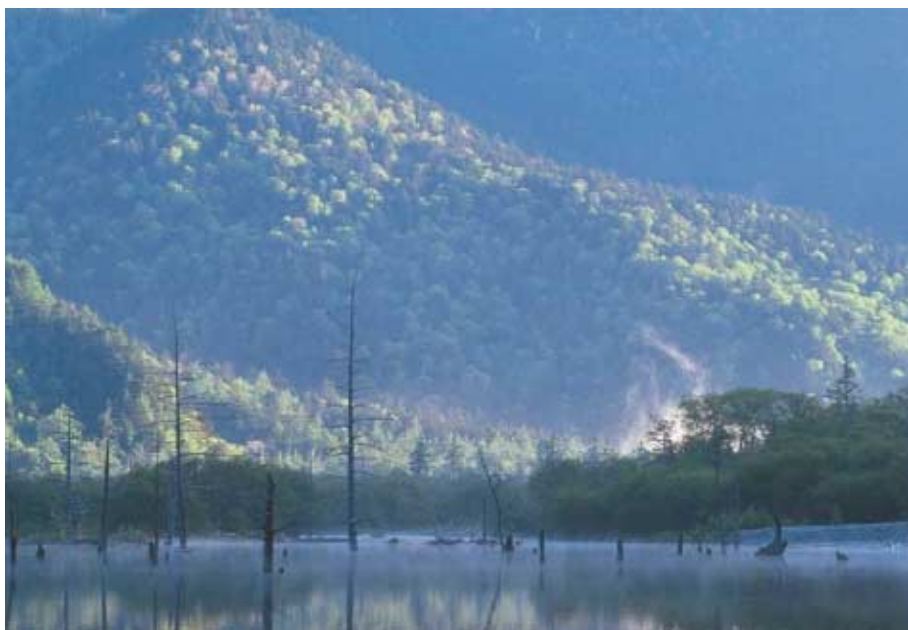


環境報告書 2004

KISSEI
ENVIRONMENTAL
REPORT
2004



目次

ごあいさつ	1
経営理念	2
キッセイ薬品行動憲章	2
キッセイ薬品環境基本方針	3
環境マネジメントシステム	4
環境マネジメントシステム組織体制	4
環境保全に関する総合計画	6
環境監査	7
環境に関する啓発・教育・研修	7
環境保全活動の実績	8
電気エネルギー使用量の推移	8
燃料使用量の推移(原油換算)	8
二酸化炭素排出量の推移	8
廃棄物量の推移	9
化学物質管理	9
環境負荷低減への取り組み	10
リデュース	10
リユース	10
リサイクル	11
地域環境整備	12
事業所実施報告	13
本社、松本工場、薬物動態研究所	13
塩尻工場、塩尻物流センター	14
ヘルスケア事業センター	15
中央研究所、製剤研究所	16
第二研究所	17
東京本社、支店	18
グループ会社の環境保全活動	19
社会的取り組みの状況	20
コンプライアンス(倫理・法令遵守)	20
労働安全衛生	20
社会・文化貢献活動	20
会社概要	21

この報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考にし、2003年度における環境への取り組みを中心にまとめています。

環境報告書の対象範囲

●対象年度：2003年度(2003.4～2004.3)を主な対象としていますが、一部2004年度を含みます。

●対象事業所：エネルギー(電気、燃料)使用量の推移、二酸化炭素排出量の推移、廃棄物量の推移、化学物質管理は、本社、松本工場、薬物動態研究所、塩尻工場、塩尻物流センター、ヘルスケア事業センター、中央研究所、製剤研究所、第二研究所、キッセイテクノス株式会社(施設・設備管理会社)のデータをまとめています。

なお、参考値として2003年度の東京本社、支店・営業所のエネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物量を加えました。年間量は月毎の量から換算しました。

企業が持続的な成長を遂げるためには国内外における、絶えざる企業間競争の中で、勝ち残りをかけた技術優位性、経済優位性など独自の企業価値を生み出してゆく必要があります。しかしながら、経済優位性を追求するあまり、行き過ぎた効率化、合理化などがもたらす経営活動上の歪み、撓みが事故、不祥事として顕在化するなど、社会的にも重大な課題となっています。

このような社会動向の中で、国際的な共通テーマとして各国政府、経済界等に台頭しつつある課題が企業の社会的責任、いわゆるCSRであることはご承知のとおりです。その定義、骨格など標準化、統一化に向けて国際的な議論が活発化していますが、共通項目をまとめれば、企業は経済的側面だけでなく、地球環境側面及び社会的側面の三分野に対し、それぞれバランスのとれた経営対応をとるべき社会的責任を負うことが要請され、これが今後の評価尺度となる趨勢にあります。

これら企業環境を取り巻く潮流変化を踏まえ、当社はCSRに対する取り組みを更に充実するための基本戦略を整備し、経営体制強化の一環として、平成16年4月より新たにCSR推進室を設置しました。新体制のもとキッセイ薬品を中心にキッセイグループ全体の環境・安全対応、倫理・法令遵守に関し管理、充実を進めております。

当社はこれまでも地球環境保全、地域社会貢献、倫理・法令遵守、労働安全衛生などに配慮した活動を進めてまいりましたが、これからは当社の研究、開発、生産、販売などを始めとするすべての事業活動そのものがCSRに直結することを再認識し、良き企業市民の一員として、経済、環境、社会に対してそれぞれ貢献できる経営を押し進める所存です。今回発行の報告書は環境が主題となっておりますが、来年度以降はCSRを視野に入れた内容に拡充する予定です。

皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2004年10月



代表取締役社長 神澤 陸雄

「純良医薬品を通じて社会に貢献する」 「会社構成員を通じて社会に奉仕する」

キッセイ薬品は、「純良医薬品を通じて社会に貢献する」、「会社構成員を通じて社会に奉仕する」という経営理念のもと、ひとに、いのちに真摯な姿勢で向き合っており、企業活動を行っております。今後も、創薬研究開発型企業として、新薬開発を通して健康、医療に貢献し、同時に地域社会に、そして地球にやさしい企業を目指してまいります。

キッセイ薬品行動憲章

キッセイ薬品は、企業活動の基本となる「企業倫理」をより明確にするため、「キッセイ薬品行動憲章」を制定しました(1999年7月1日付)。

全ての役員、全ての社員は、日常の業務遂行にあたり、この行動憲章の精神に基づき具体的に実践しております。

キッセイ薬品行動憲章

私たちは以下の条項に基づき、国内外を問わず、全ての法令、規則およびその精神を遵守すると共に、より高い倫理観をもって行動します。

1. 世界の人々の健康に貢献するための、有効性、安全性に優れた高品質な医薬品の研究、開発に積極的に取り組み、その安定供給を行います。
2. 治験の実施に当たっては、医療機関の協力を得て、被験者の人権を尊重し、安全確保に留意し、かつ科学的厳正さをもって行います。
3. 供給した医薬品が適正に使用されるよう、正確かつ迅速な情報の提供、収集・評価・伝達に努めます。
4. 全ての事業活動において、公正、透明で自由な競争を行います。また、政治、行政、医療関係者、その他取引先とは、健全かつ正常な関係を保ちます。
5. 株主はもとより、広く社内外に対し適切な情報開示を積極的に行い、企業活動の透明性を高めます。
6. 環境問題への取り組みを当然の使命と認識し、地球環境の保全に努め、豊かで住み良い社会の実現に貢献します。
7. 良き企業市民として、積極的にメセナ、フィランソロピー等の社会貢献活動を行います。
8. 国際事業の展開においては、その国や地方の文化や慣習を尊重し、企業活動を通じて現地の発展に寄与するよう努力します。
9. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体とは、断固対決します。
10. 製薬企業にふさわしい倫理観の涵養と資質の向上に努め、企業活動を通じて医療に貢献するための教育・研修を一層充実させます。

キッセイ薬品環境基本方針

当社は経営理念に基づき、行動憲章において「環境問題への取り組みを当然の使命と認識し、地球環境の保全に努め、豊かで住み良い社会の実現に貢献します」と定めています。

行動憲章に明記されています「環境問題への取り組み」を実行するため、1999年に環境方針を制定し、環境や地域社会に対してとるべき姿勢を明確にしました。

2004年には環境方針の改定を行い、新たに環境基本方針を制定し、「キッセイ薬品は明日の健康を見つめる創薬研究開発型企业として、企業の社会的責任において積極的に地球環境保全に努めるとともに、豊かで住み良い社会の実現に貢献します」という基本理念を掲げています。また、基本理念を具体的活動へつなげるための基本方針を6項目定めています。

今後、この環境基本方針に基づき、積極的かつ継続的な取り組みを推進します。

環境基本方針

1 基本理念

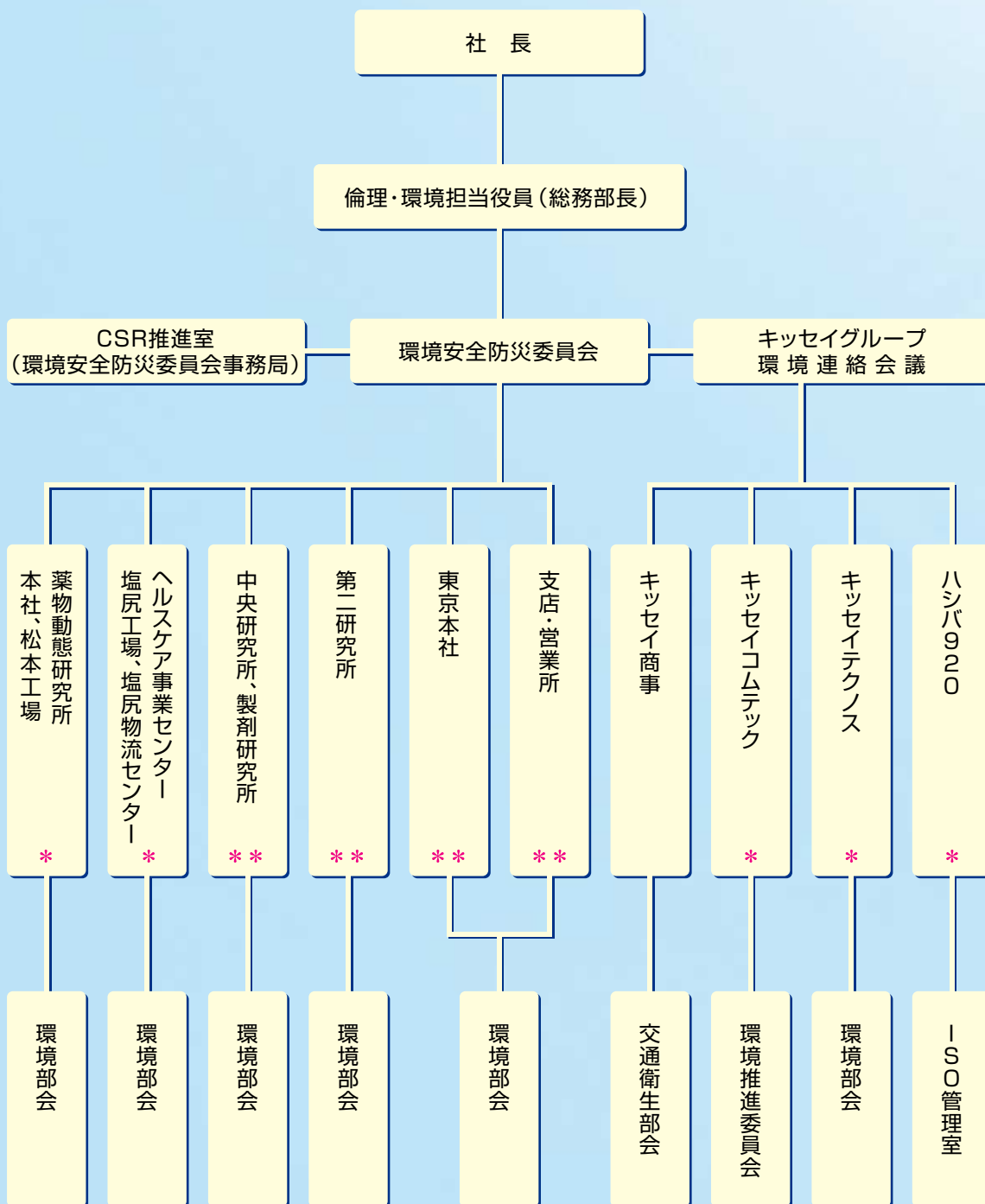
キッセイ薬品は明日の健康を見つめる創薬研究開発型企业として、企業の社会的責任において積極的に地球環境保全に努めるとともに、豊かで住み良い社会の実現に貢献します。

2 基本方針

- (1) 製品の研究、開発、生産、流通、販売、使用、廃棄など一連の企業活動が環境に与えるさまざまな影響を評価し、環境への負荷低減の活動を推進します。
- (2) 地球環境保全の取り組みのため、環境目的、目標を定め実行し、定期的な見直しを行い継続的改善を図ります。
- (3) 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを積極的に推進することにより環境負荷の低減に努力し、汚染の予防に努めます。
- (4) 関連する環境法規、協定および当社が同意したその他の要求事項について遵守するとともに、自主基準を設定し更なる環境保全に取り組みます。
- (5) 社員一人ひとりが、環境教育を通じて環境に対する意識の高揚と倫理観の向上を図り、積極的に環境汚染の未然防止のための活動を推進します。
- (6) 当社は地球環境問題を真摯に受止め、キッセイグループとともに環境保全に努めます。

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム組織体制



* : ISO14001 認証取得事業所

** : ISO14001 導入予定事業所 (2004年4月1日現在)

当社は、企業の社会的責任体制の更なる充実のために、2004年4月CSR推進室を新設するとともに、環境部会、安全衛生部会、消防部会などの各部会から構成される環境安全防災委員会を設け、環境安全等をマネジメントする組織体制を確立しました。その中で事業所毎の環境部会では環境基本方針、環境目的及び目標等の立案、設定、周知徹底、見直しを図るとともに、それぞれの事業所での環境保全活動の推進につなげています。

また、本社地区(本社、松本工場、薬物動態研究所)、塩尻地区(塩尻工場、塩尻物流センター、ヘルスケア事業センター)では、ISO14001環境マネジメントシステムを導入し、より積極的な環境マネジメントを推進中です。

今後、中央研究所、第二研究所及び東京本社、支店・営業所にISO14001導入を拡大し、全社的な環境マネジメントシステムを構築します。

また、グループ会社間では、グループ環境連絡会議を定期的に行い、グループ全体の情報の共有や課題の解決を図りながら環境保全活動を推進しています。



「キッセイ」は1946年創立。当時は、初代社長・雨森正五郎の家紋である橘たちばなを冠した橘たちばな生化学研究所としてスタートしました。翌年、橘生薬品工業株式会社と改称され、1964年に現社名の「キッセイ薬品工業株式会社」となりました。

環境保全に関する総合計画

環境基本方針を具体化するため、行動計画を作成し実行しています。今後は、取り組み対象を拡げ、更なる環境保全活動を推進してまいります。

管理項目	2003年度実績	2005年度目標 *
環境マネジメントシステム	<ul style="list-style-type: none"> 薬物動態研究所において予定通りISO 14001認証を取得した(2003年9月)。 	<ul style="list-style-type: none"> 全社が環境マネジメントシステムにより組織的な環境保全活動を行う。 中央研究所、製剤研究所、第二研究所、東京本社でISO14001の導入準備を行う。
省エネルギー・地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギー使用量は2002年度比0.06%増加とほぼ横ばいであった。 二酸化炭素排出量は2002年度比1.3%の増加であった。 営業車両(リース)として低公害車を新たに58台導入した(合計157台)。 	<ul style="list-style-type: none"> 全社の二酸化炭素排出量を把握し、削減活動を推進する。 二酸化炭素排出量を2005年度には2002年度実績に比較して10%削減する。
省資源	<ul style="list-style-type: none"> 分包品の包装容量変更により、廃棄物量の削減(約45kg/年)を行った。 ダンボールのリユースを推進した。 OA用紙の購入量は両面コピーの推進等により、2002年度比3.8%(約84,000枚)削減した(ISO14001対象事業所)。 文具・事務用品のグリーン製品の購入・採用を積極的に行い、48品目(購入金額の割合は78%)の製品を採用している。 古紙配合率100%・白色度70%OA紙の利用を推進している。2003年度の白色度70%OA紙の使用比率は96%であった(ISO14001対象事業所)。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品のグリーン購入率を、2005年度には80%以上とする。 古紙配合率100%・白色度70%OA紙を使用する。
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 分別廃棄等の推進により、廃棄物リサイクル率は48%であった。 廃棄物量は2002年度比25%増加した(本社の設備更新に伴う一時的増加)。 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル率を70%まで高める。 最終処分量を2005年度には2002年度実績に比較して50%削減する。
化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> PRTR該当物質については全て管理対象とし、取扱量、排出量の把握を行った。 化学物質の大気への排出抑制のため、中央研究所に溶媒回収装置を21台導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な化学物質管理システムの導入準備を行う。
法規制の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 排出基準、法規制値の遵守については、更に自主基準値を設け、その遵守を図った(排水、排ガス等)。 	<ul style="list-style-type: none"> 排出基準、法規制値の遵守が継続されている。
地域環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 地域との共生を目指して、定期的に地域環境整備を行った。 創立記念日行事として公園等の公共施設の清掃を実施した。 「穴田川をきれいにする会」への協力と清掃活動に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域環境整備活動をより積極的に実施する。 「穴田川をきれいにする会」への協力と清掃活動への参加を継続する。
環境会計	<ul style="list-style-type: none"> 環境省ガイドラインに沿って2003年度環境会計を試算した。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境会計を導入し、公開予定。

* 中長期環境保全目標として設定しています。

環境監査

ISO14001環境マネジメントシステムでは、システムの適切な維持、管理の検証のため、定期的に内部環境監査を実施することが求められています。

2003年ISO認証取得事業所を対象とした内部環境監査の結果、訓練教育、監視及び測定で軽微な不適合が指摘されました。これらの指摘については、指摘後1ヶ月以内には是正処置が取られ適切な対応がされました。このように、今後とも内部環境監査を通して環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組んでいきます。

また、2003年7月にISO14001認証取得事業所の更新審査、薬物動態研究所の拡大審査が外部審査機関により行われました。審査の結果、重大な指摘もなく更新審査、拡大審査を終了いたしました。



外部審査機関による更新審査

環境に関する啓発・教育・研修

地球環境に対してやさしい企業を目指すため、環境に関する啓発・教育・研修を実施しています。

社内報には定期的に地球環境問題を取り上げて解説し、社内啓発・教育の材料として提供しています。また、新入社員に対しては、入社時の教育研修期間内にISO14001環境マネジメントシステム、地球環境問題について教育を実施し、企業人として環境に真摯に向き合う姿勢を求めています。

環境マネジメントシステムの適切な維持管理のために、内部環境監査が重要になります。そのため、内部環境監査員の定期的な教育や、内部環境監査員の育成のための外部研修機関による研修を実施しています。

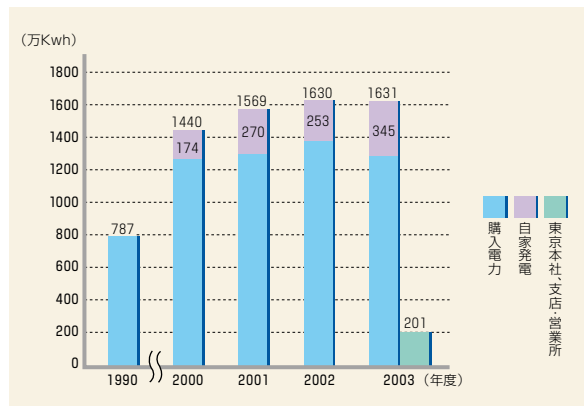
更にグループ会社と共同で環境保全に取り組むため、定期的なグループ環境連絡会議を設けて、環境情報の交換や環境課題の共有、環境目的、目標への意見交換等、グループ全体での環境意識の向上、啓発を推進しています。



新入社員教育

環境保全活動の実績

電気エネルギー使用量の推移



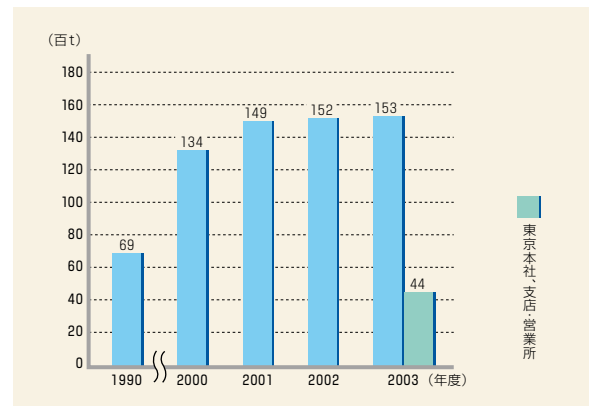
温室効果ガスの排出削減について目標を定めた1997年の京都議定書(気候変動枠組条約、第三回締約国会議で制定)に基づき、当社も全社的に二酸化炭素排出量の削減に取り組みました。

2003年度から東京本社、支店・営業所を加え全社でエネルギー(電気、燃料)使用量の集計を行い、二酸化炭素排出量の削減の取り組みを始めました。

第二研究所、本社、松本工場、塩尻工場では1999年度以降自家発電機を導入し、購入電力の削減、二酸化炭素排出量の削減を進めています。

2003年度の電気使用量は、対前年度比1万Kwh(0.06%)増とほぼ横ばいでした。ただし、購入電力においては、対前年度比91万Kwh(6.6%)削減しました。

二酸化炭素排出量の推移

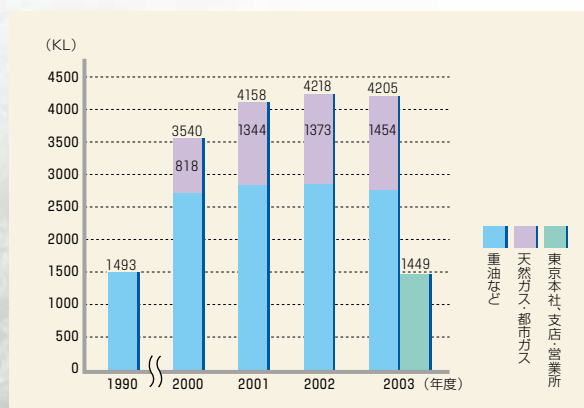


2003年度の二酸化炭素排出量は、対前年度比100t(1.3%)と微増していますが、ここ数年の推移を見ますとほぼ横ばいとなっています。

天然ガスは重油より二酸化炭素の排出量が少ないため、今後は燃料として天然ガスの使用を進めます。

燃料使用量、二酸化炭素排出量については、日本経済団体連合会の「環境自主行動計画フォローアップ」の二酸化炭素排出係数により再計算しました。

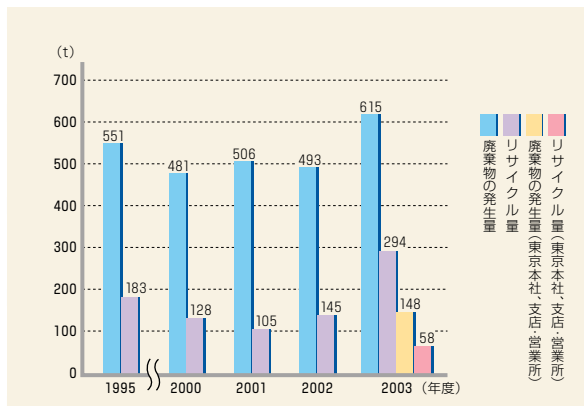
燃料使用量の推移(原油換算)



2003年度の燃料使用量は、対前年度比13KL(0.3%)減少しました。

重油などの使用量は94KL減少しましたが、ガスの使用量は81KL増加しました。これは、本社、松本工場の天然ガスコージェネレーションが本格的に稼働し、ガスの使用量が増加したためです。

廃棄物量の推移



2003年度の廃棄物量は、本社での設備更新に伴う一時的な増加により、対前年度比122t(24.7%)増加しました。

2003年度のリサイクル量は、リサイクル業者の対象品目の追加、分別廃棄の推進、汚泥水のリサイクル化等により149t(103%)増加しました。

2003年度のリサイクル率(リサイクル量/廃棄物量)は47.8%でした。

化学物質管理

PRTR法により、2001年4月から特定化学物質の適正な管理が義務付けられています。

当社は日本製薬工業協会によるPRTR調査に参加し、化学物質の環境への排出量の削減及び適正管理に努めています。

2003年度のPRTR法による届出義務のある特定化学物質(年間取扱量1t以上の化学物質、ダイオキシン類)は表のとおりです。

アセトニトリル、ジクロロメタンは主に研究所で使用され、ダイオキシン類は焼却炉から発生します。

中央研究所では実験室用溶媒回収装置を導入し、実験に使用した化学物質の回収を行い、化学物質の適正管理を進めています。

2002年度には研究所に設置されていた2基の焼却炉を廃止しましたので、2003年度はダイオキシン類の排出量及び移動量が減少しました。なお、当社は研究活動に伴う特定化学物質の一層の使用量削減に努力します。

特定化学物質名 (単位)	対象事業所 取扱量	2003年			
		対象事業所 取扱量	排出量		移動量
			大気	水質	
アセトニトリル (t)	1.70	1.25	0.41	0.0	0.84
ジクロロメタン (t)	1.90	1.52	0.52	0.0	1.00
ダイオキシン類 (mg-TEQ)	18.30	0.015	0.014	0.0	0.001



溶媒回収装置

【PRTR (Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出・移動登録)】

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)により、法律で定められた化学物質について、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、廃棄物としてどれくらい事業所外へ運び出されたかを把握し、集計し、公表する仕組みです。

環境負荷低減への取り組み

リデュース

分包品の包装容量変更による廃棄物量の削減

分包品の包装容量を100g分包品(1g×50包×2)から120g分包品(1g×30包×4)に変更しました。従来は3連包×16枚+2連包(計50包)のため、連包でない1包分の有効活用ができずにいましたが、3連包×10枚(計30包)とすることで有効活用し、資材の削減につなげることができました。2003年度は約45,000分包を有効活用しました。



改善前(3連包×16枚+2連包)

改善後(3連包×10枚)

オンサイト発電による二酸化炭素削減

2003年10月より関係会社のキッセイテクノスは塩尻工場構内に自家発電機を稼働し、塩尻工場、塩尻物流センターに電力と熱を供給しています。発電機より発生する熱は工場で使用している空調機用の温熱源として利用しています。

その結果、空調機用の重油の使用量を32KL削減することができ、空調機からの二酸化炭素の排出量を約100t削減できました。また、オンサイト発電による二酸化炭素の排出量は約200tでした。このため、差し引きの排出量は約100t増加に抑えることができました。



オンサイト発電機

リユース

使用済み封筒の社内使用封筒への利用

使用済みの封筒は、部門間の書類送付の際の社内使用として利用しています。社内使用封筒は新しい宛名用紙を貼付して繰り返し使用しています。



社内使用封筒

名刺プラスチックケースのリユース

名刺プラスチックケースは従来、使用后廃プラスチックとして廃棄されていましたが、使用后回収し、リユースされています。

2003年度は約1,200ケースをリユースし、年間約20kgの廃棄物を削減できました。



名刺ケース

リサイクル

研究所での実験用手袋のリサイクル

研究所で不要になった実験用ゴム手袋は、指定の回収箱に集められます。回収箱は手袋販売業者に送られ、サーマルリサイクル燃料として利用されています。また、他の手袋についてもリサイクル可能な製品に変更予定です。



ゴム手袋回収箱

ゴム手袋

グリーン購入

グリーン購入とは、品質や価格に加え環境を考慮して、環境負荷ができるだけ小さい製品を購入することです。

当社は2000年より「グリーン購入ネットワーク」に参加し、消耗品を中心にグリーン購入に積極的に取り組んでいます。

2003年度までの文具・事務用品のグリーン購入は48品目で、その購入金額の割合は78%でした。



グリーン製品

社員食堂から発生する生ゴミのリサイクル

本社社員食堂より出される生ゴミは微生物醗酵による生ゴミ処理機で処理され、構内樹木の堆肥として利用しています。

これにより生ゴミの廃棄量を年間約1,500kg削減することができました。



有機物高速醗酵機

地域環境整備

環境整備活動の一環として地域の環境整備を行っています。年2回の全社一斉美化運動や河川の清掃活動の他、自治体と住民が一体となった清掃活動にも参加し、環境保全に協力しています。今後も積極的な活動を展開し、地域環境整備に貢献します。

時期	活動内容	
5月	キッセイ薬品	・キッセイ薬品の各事業所周辺の歩道、側溝の清掃を実施(ゴミゼロ運動)
6月	松本市をきれいにする会	・松本市中心部の道路、公共施設の清掃を実施
10月	キッセイ薬品	・キッセイ薬品の全国の事業所周辺の歩道、側溝及び公園を中心とした公共施設の清掃を実施(創立記念日一斉清掃)
	松本市をよくする市民運動推進会議	・松本市中心部の道路、公共施設の清掃を実施
	「クリーン塩尻」推進連絡会議	・塩尻市内の道路、公共施設の清掃を実施
12月	穴田川をきれいにする会	・企業、地域住民、自治体の共同による河川の清掃を実施
3月	穴田川をきれいにする会	・企業、地域住民、自治体の共同による河川の清掃、伐採による景観整備、植樹を実施



ゴミゼロ運動



穴田川清掃活動



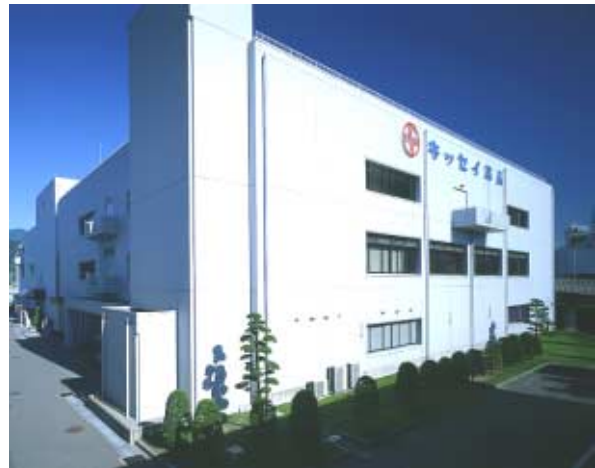
穴田川の伐採による景観整備

事業所実施報告

本社、松本工場、薬物動態研究所

所在地：〒399-8710
長野県松本市芳野19番48号

主たる活動：医療用医薬品の製剤製造
(松本工場)



松本工場

環境関連法に関するデータ

大気

項目	基準値(条例)	測定値
NO _x (cm ³ /m ³)	180	73
SO _x (Nm ³ /hr)	9.0	0.067
ばいじん(g/Nm ³)	0.3	<0.005

最も測定値の高いものを掲載 NO_x:窒素酸化物、SO_x:硫黄酸化物

水質(公共用水域)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	93,300
pH	5.8-8.6	7.4
BOD(mg/L)	30	3.4
SS(mg/L)	50	1.0
大腸菌群(個/cm ³)	3000	7

排水：専用の処理施設を経て公共用水域、公共下水道に放流
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載
pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、
SS：浮遊物質質量

廃棄物

廃棄物の発生量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
238.5	112.2	47

水質(公共下水道)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	50,580
pH	5.0-9.0	7.6
BOD(mg/L)	600	21.0
SS(mg/L)	600	19.0

報告

松本工場は、内服固形製剤、注射剤、液剤などの医薬品を製造する製剤工場です。本社、松本工場では、2000年9月ISO14001を認証取得し、積極的な環境保全活動を行っています。

製造活動に伴って次のような環境負荷要因が上げられます。

- ・ 試験検査業務に数々の化学物質を使用する
- ・ 法規制対象業務がある
- ・ 製造環境の維持や製造設備及び昼夜運転装置に多くの電力を使用する
- ・ 消毒、殺菌及び滅菌業務に特定化学物質を使用する

これらの環境負荷を低減する活動として、具体的には、PRTRなど化学物質の管理を適切に実施し、業務方法や設備の変更による使用量や粉塵飛散の削減を進め、法規制及び自主基準を遵守しています。更に、分別回収やリサイクルによる廃棄物の削減、不要箇所や不要機器の電源OFFによるエネルギーの削減、設備変更による使用資材の削減、グリーン購入の拡大、コピー用紙の削減などの活動をしています。

2004年度も新たな環境目的、目標を掲げて活動中です。京都議定書に始まる地球環境問題を念頭に、松本工場は、会社の環境基本方針を遵守し環境保全活動を展開し、環境負荷低減として、電力使用量の調査・分析や設備変更及び作業方法の変更・改善などにより電気使用量の削減や化学物質の更なる使用量の削減に取り組んでいます。同じ敷地内の薬物動態研究所も、2003年9月にISO14001を認証取得し、化学物質の管理を始め、環境負荷低減の活動を行っています。

塩尻工場、塩尻物流センター

所在地：〒399-0711

長野県塩尻市片丘9637番地5

主たる活動：医療用医薬品の包装、市場への出荷



塩尻工場

環境関連法に関するデータ

大気

項目	基準値(条例)	測定値
NO _x (cm ³ /m ³)	180	75
SO _x (Nm ³ /hr)	6.4	0.034
ばいじん (g/Nm ³)	0.3	<0.005

最も測定値の高いものを掲載

廃棄物

廃棄物の発生量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
135.4	93.6	69

水質

項目	基準値(条例)	測定値
排出量 (m ³ /年)	—	2,458.3
pH	5.8-8.6	6.7
BOD (mg/L)	30	9.7
SS (mg/L)	50	10
大腸菌群 (個/cm ³)	3000	11

排水：専用の処理施設を経て公共用水域に放流
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

報告

塩尻工場、塩尻物流センターは、周囲を緑に囲まれた自然環境豊かな場所に位置し、1990年12月に塩尻物流センターが竣工、1994年10月に包装を主たる業務とした塩尻工場が竣工し、錠剤、カプセル剤、細粒剤、注射剤、点眼剤等医薬品の保管、包装、市場への出荷を行っています。環境面では、2000年9月にISO14001を認証取得しました。

当地区では、生産及び出荷活動に伴う包装容器等の廃棄物の発生や排水などの環境負荷があります。そのため、分別廃棄を徹底することによるリサイクル率の向上や浄化槽の適切な管理により、排出基準を遵守しています。

当地区は、大きな環境負荷はありませんが、大気、水質、騒音等に対して、法及び県条例の規制遵守は勿論のこと、更に厳しい自主管理基準を設定して管理しています。また、2003年度の環境目標は全て達成し、2004年度も新しい環境目標を設定し、管理を行っています。

今後も環境に係わる法規制の遵守はもとより、環境マネジメントシステムによる環境保全活動を実践し、更なる継続的改善を図ります。

ヘルスケア事業センター

所在地：〒399-0711
長野県塩尻市片丘9637番地6

主たる活動：介護・高齢者向けの食品や腎疾患、
生活習慣病などの方々の食事療法に役立つ食品
の開発・販売



ヘルスケア事業センター

環境関連法に関するデータ

水質

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	396.7
pH	5.8-8.6	6.0
BOD(mg/L)	30	7.4
SS(mg/L)	50	6.4
大腸菌群(個/cm ³)	3000	0

排水：専用の処理施設を経て公共用水域に放流
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

廃棄物

廃棄物の発生量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
5.4	3.4	63

報告

ヘルスケア事業センターは、塩尻工場、塩尻物流センターに隣接しており、2001年5月竣工と同時にヘルスケア事業部の活動拠点として稼動を開始しました。環境面では、塩尻工場、塩尻物流センターと同じく2000年9月ISO14001を認証取得しました。

当事業部では、高齢社会の進展や在宅介護の増加といった時代の流れをとらえ、介護・高齢者向けの食品や腎疾患、生活習慣病などの方々の食事療法に役立つ食品を開発・販売しています。当センターは、製品の入出荷・保管管理を担う物流エリア、製品の企画開発、品質管理を担う開発エリア、及び営業拠点としての事務所エリアから構成されています。また、製品は全てOEM生産であるために製造機能は有しておりません。

環境面において当センターは、法規制対象となる施設はなく、また危険物・毒劇物の使用もありませんが、毎年新しい環境目標を設定して活動を展開しています。また、浄化槽からの公共水域への排出は、法及び県条例の規制遵守はもちろんのこと、自主管理基準を設定して管理しています。

2004年度は、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減に重点をおき、より具体的な目標を設定して活動を展開しています。今後も環境に係わる法規制の遵守はもとより、環境マネジメントシステムによる環境保全活動を実践して、更なる継続的改善を図ります。

中央研究所、製剤研究所

所在地：〒399-8304
長野県南安曇郡穂高町大字柏原4365番地1
主たる活動：新薬候補化合物の合成、薬理試験、
製剤化に関する研究



中央研究所

環境関連法に関するデータ

PRTR法対象化学物質(2003年度) (単位:t)

物質名	取扱量	大気排出量	移動量
アセトニトリル	1.25	0.41	0.84
ジクロロメタン	1.52	0.52	1.00

年間取扱量1t以上の物質を記載

大気

項目	基準値(条例)	測定値
NO _x (cm ³ /m ³)	180	79
SO _x (Nm ³ /hr)	3.8	0.038
ばいじん(g/Nm ³)	0.3	<0.005

最も測定値の高いものを掲載

廃棄物

廃棄物の発生量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
217.1	80.6	37

水質

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	37,230
pH	5.8-8.6	6.3
BOD(mg/L)	30	4.0
COD(mg/L)	30	9.5
SS(mg/L)	50	4
ヘキサン(mg/L)	30	<1.0
シアン化合物(mg/L)	1	<0.01
ジクロロメタン(mg/L)	0.2	<0.01

排水：専用の処理施設を経て公共水域に放流
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載
COD：化学的酸素要求量

報告

中央研究所は穂高町に位置し、敷地内に製剤研究所を併設した創薬研究から開発研究、製剤研究まで幅広い研究活動を行っている研究所です。

化学及び生物と多岐に渡る研究が実施されていることから、種々の化学物質が取り扱われており、化学物質の大気中、水中への放出をはじめ保管、廃棄については十分な管理体制を整えています。また、動物実験が行われていることから動物飼育施設からの排水処理についても適切な処理、管理が要求されており、そのため法遵守はもちろんのこと、自主管理基準を設け管理しています。

穂高町は自然環境が豊かで、観光を主要産業とする特性から、環境保全に対しては行政、住民、企業とも関心が高い地域です。当研究所は穂高町及び研究所立地周辺地区と環境保全に関する協定書を締結し、半年に1回穂高町と地元住民参加による大気中へのばいじん、悪臭ならびに水質の立会検査の実施や、土壌中や大気中細菌検査、動物飼育室の落下菌検査などの実施や地区への定期的な報告等、共同して環境保全活動を行っています。

今後は更に積極的な環境保全活動を行うべくISO14001の認証取得に向かって準備を進めています。

環境保全に対する関心が大きくなるに伴って、法的な規制も厳しくなっていますが、地球環境保全のため積極的な活動を実施しています。

第二研究所

所在地：〒399-8305
長野県南安曇郡穂高町大字牧2320番地1
主たる活動：新薬候補物質の安全性試験に関する研究



第二研究所

環境関連法に関するデータ

大気

項目	基準値(条例)	測定値
NO _x (cm ³ /m ³)	180	69
SO _x (Nm ³ /hr)	9.8	0.032
ばいじん(g/Nm ³)	0.3	<0.005

最も測定値の高いものを掲載

廃棄物

廃棄物の発生量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
19.1	4.2	22

水質

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	17,885
pH	5.8-8.6	7.7
BOD(mg/L)	30	2.8
COD(mg/L)	30	4.1
SS(mg/L)	50	3
ヘキサン(mg/L)	30	<1.0
シアン化合物(mg/L)	1	<0.01
ジクロロメタン(mg/L)	0.2	<0.01

排水：専用の処理施設を経て公共水域に放流
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

報告

第二研究所は新薬候補物質の安全性をさまざまな角度から慎重かつ厳密に調べる研究所で、国の定める「医薬品の安全性試験の実施に関する基準」GLP (Good Laboratory Practice) に基づいた実験が行われています。適正な実験動物管理のため、温度、湿度、清浄度等が常に維持されるとともに、差圧調整により空気の流れも常に一定方向となっています。

環境面においては、GLPに基づくクリーンな環境を常に維持することが重要であり、空調設備に要するエネルギー消費量が多い点と、動物飼育に伴う廃水処理、多種類の化学物質等の取り扱い及び廃棄物の管理などがあります。

穂高地区は観光と農業と自然に恵まれた町であり、研究所竣工当時から中央研究所と同じく環境保全のため、水質、大気等の公害防止に対し適切な管理を行っています。更に、当社は穂高町及び地元住民との環境保全協定を結び、半年に1回、穂高町と地元住民による立会検査を実施して地域との環境コミュニケーションを行っています。また、水質、大気の排出基準は法令及び県条例より厳しい自主管理基準を設定して、より高い環境管理に取り組んでいます。

現在は、2006年のISO14001の認証取得を目指し準備を進めるとともに、環境に係わる法規制遵守の継続的な取り組みをしています。

東京本社、支店

所在地：

東京本社：〒103-0022
東京都中央区日本橋室町
一丁目8番9号

東京本社：〒112-0002
(小石川) 東京都文京区小石川三丁目1番3号

主たる活動：

東京本社：東京の本社機能の活動拠点
支 店：医療用医薬品の医薬情報活動の拠点

環境関連法に関するデータ

廃棄物

部 署	廃棄物の発生量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
東京本社	28.0	12.9	46
東京本社(小石川)	55.1	36.4	66

報告

東京本社は、省エネルギー、省資源、廃棄物分別を主な環境保全活動として実施しています。紙の使用量が多いことから、更に分別廃棄を徹底し資源の効率的な使用を推進します。また、各支店にはISO取得事業所での取り組みを紹介しながら環境意識の啓発に努め、環境保全活動を推進しています。今後は、環境マネジメントシステムによる効果的な環境保全活動を目指してまいります。また、全社的な二酸化炭素の排出抑制に取り組むために、各支店での電気使用量、ガソリン使用量等の環境データの把握を行っています。



東京本社



東京本社(小石川)

グループ会社の環境保全活動

キッセイ商事株式会社 澤志庵製麺所

所在地：〒399-0702
長野県塩尻市大字広丘野村1914番地
主たる活動：麺類の製造



キッセイ商事株式会社 澤志庵製麺所

報告

当工場は長野県塩尻市の角前工業団地に立地し、環境保全活動の一環として2003年3月に排水処理施設を完成させ、適切な排水処理を行っています。また、年2回実施される地域周辺の清掃活動には全社員が積極的に参加する等、環境保全活動に日々努めています。

環境関連法に関するデータ 水質

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m ³ /年)	—	9,720
pH	5.0-9.0	7.4
BOD(mg/L)	600	28
SS(mg/L)	600	46
ヘキサソ(mg/L)	30	3

排水：専用の処理施設を経て公共下水道に放流

キッセイコムテック株式会社

所在地：〒390-1293
長野県松本市大字和田4010番10
主たる活動：ソフトウェア開発、情報処理



キッセイコムテック株式会社

報告

当社はシステム開発を主体とする総合情報サービス業であり、21世紀に存続する企業の社会的責任において、積極的に地球の環境保全活動に取り組むという方針のもと、2002年6月にISO14001を認証取得し、省エネルギーの推進、省資源の推進、リサイクルの推進及び可燃ゴミ排出量の削減、グリーン購入の推進を継続的にを行っています。

株式会社ハシバ 920

所在地：〒399-0014
長野県松本市平田東二丁目1番1号
主たる活動：総合建設業



株式会社ハシバ920

報告

2002年2月にISO14001を認証取得し、積極的な環境管理活動を推進しています。

建築部門においては、全ての現場において産業廃棄物の削減と分別を重点的に進めています。工事現場からの分別された建築廃材は、古材センターの集積場に集められ、鉄くずとともにリサイクルを図っています。設計段階からも、省エネルギー型(高气密・高断熱)住宅を積極的に提案しており、ソーラー、風力等のエコ商品を導入するなど、常に環境への取り組みを心がけています。

2004年度は古材の販売物件数の向上によるリサイクル、リユースの強化を目標としています。また、事務部門においては、コピー用紙の削減、電気エネルギーの削減に取り組んでいます。

社会的取り組みの状況

コンプライアンス(倫理・法令遵守)

当社は生命関連企業として、人々の健康に直接係わる医薬品をはじめとする製商品を社会に提供するという、重要な社会的責任を有しています。

このため、すべての企業活動を行う際には、社会の基本的なまきまりである法令や倫理を遵守することが不可欠です。当社はコンプライアンス重視の経営を推し進めるために、経営の根幹をなす「経営理念」のもと「キッセイ薬品行動憲章」(2ページ)を制定しています。更に、10の条項からなる行動憲章に従い、コンプライアンス・プログラムマニュアルとして展開し、このマニュアルに基づいた全社的な教育、実践、管理を進めています。

当社はこれからも一連のコンプライアンス体制を適時見直し、強化していきます。



コンプライアンス・プログラム
マニュアル、Q&A事例集

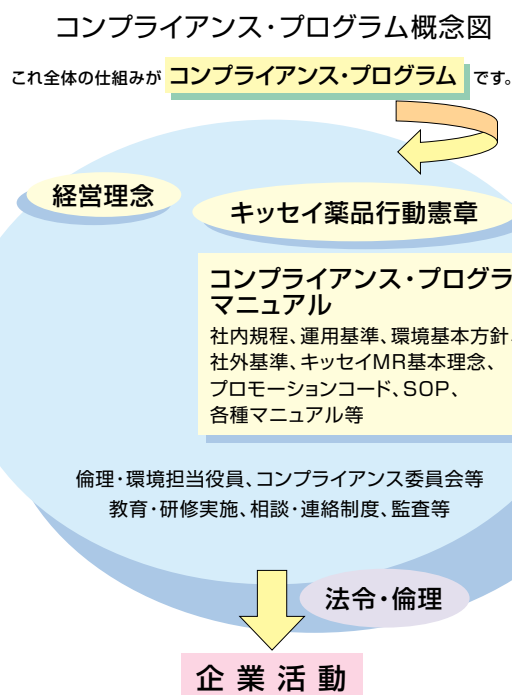
労働安全衛生

当社は安全で快適な職場環境を生み出すために、環境安全防災委員会傘下の安全衛生部会が中心となり各職場における活動を展開しています。同時に環境安全防災規程による管理体制を整備し、職場の安全性を確保するために、事業場における危険あるいは有害な要因がある場合は、これを特定しその防止策、低減策を推進しています。「安全衛生・防災の手引き」を全管理者、新入社員等へ配布し、労働安全衛生の啓発を継続しています。また、定期的な職場巡回パトロール、作業環境測定による安全・衛生点検を励行しています。社内発生した事故・災害は本委員会、事業所内へ水平展開し再発防止に努めています。なお、2003年度に実施した事故・災害事例の水平展開は2件でした。

社会・文化貢献活動

音楽文化面

当社は国際的にも評価の高い「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」を協賛しています。このフェスティバルは指揮者の小澤征爾氏とサイトウ・キネン・オーケストラが母体となり、オーケストラとオペラの2本の柱を中心に構成され、毎年初秋に日本アルプスの麓にある山岳都市松本において開催される音楽祭です。地元をはじめ国内外から訪れた多くのファンが世界一流の音楽に酔いしれます。



また、定期的な健康診断に加え、最近では精神衛生面も重視した管理職へのメンタルヘルスクエア研修を導入しています。

災害ゼロから危険ゼロの職場を目指し、より一層の安全対策を推進させるために、労働安全衛生マネジメントシステムの導入を検討しています。



職場巡回パトロール

安全衛生・防災の手引き



サイトウ・キネン・フェスティバル松本 ©大窪道治

スポーツ文化面

当社はかねてよりスポーツ文化の発展、振興にも努力しています。中でも当社女子テニスチームは1997年から戦力の強化に取り組んだ結果、2003年には実業団では最高峰の日本リーグ昇格という大きな栄冠を手中にすることができました。日本リーグへの仲間入りは長野県下では女子テニス界初めての快挙であり、地域のスポーツ発展に、一層の弾みがつくものと期待されています。



女子テニスチーム

会社概要 (2004年3月31日現在)

社 名 **キッセイ薬品工業株式会社**

英文社名 KISSEI PHARMACEUTICAL CO.,LTD.

設 立 昭和21年8月9日

資 本 金 24,219百万円

主 要 な 事業内容 医療用医薬品の研究、開発、製造、販売

事 業 所 本 社 長野県松本市芳野19番48号 電話(0263)25-9081 〒399-8710

東京本社 東京都中央区日本橋室町一丁目8番9号 電話(03)3279-2761 〒103-0022

東京本社(小石川) 東京都文京区小石川三丁目1番3号 電話(03)5684-3530 〒112-0002

支 店 札幌支店、仙台支店、関越支店(さいたま市)、東京支店、横浜支店、松本支店、名古屋支店、京都支店、大阪支店、高松支店、広島支店、福岡支店
(注)支店の下に24営業所を設置しております。

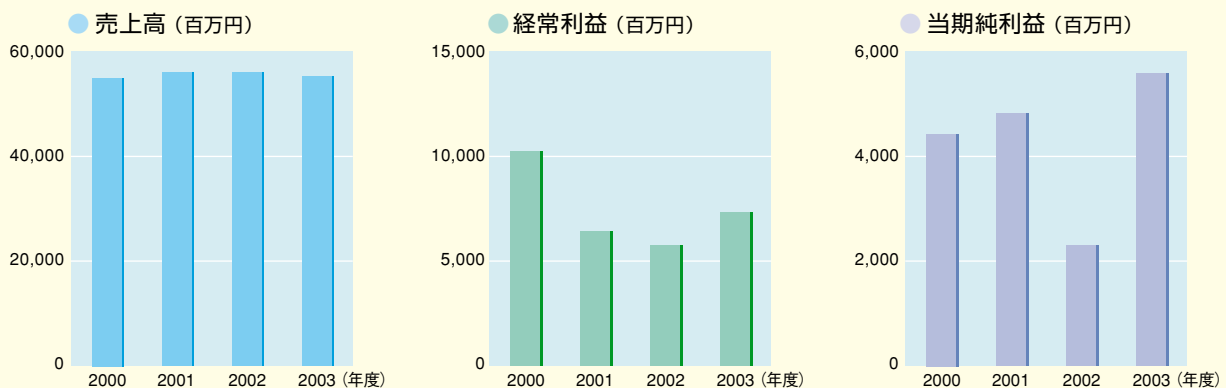
工 場 松本工場、塩尻工場(物流センターを含む)

研 究 所 中央研究所、第二研究所、製剤研究所(長野県穂高町)

ヘルスケア事業センター(塩尻市)

従業員数 1,456名(平均年齢36.4歳)

決算概況(キッセイ薬品工業株式会社単体)



明日の健康を見つめる

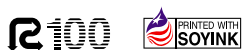


本報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先

キッセイ薬品工業株式会社 総務部CSR推進室

〒399-8710 松本市芳野19番48号
TEL.0263-25-9081(代表) FAX.0263-25-9040

発行：2004年10月



この用紙は100%再生紙で、印刷は大豆油インキを使用しています。